

瀬戸神社平成御修造事業

記念碑（奉賛者芳名簿）が設営除幕



「みたまのふゆ」とは、私共が常に蒙りいただいております大神様の恩徳、加護、御神威を尊称した言葉です。人間は自分ひとりの力で生きてゐるのではなく、つねに「みたまのふゆ」をいただいで、生かされてゐるのです。

瀬戸神社平成御修造事業は、多数の氏子崇敬者の皆様の御奉賛を得て執り進められて参りました。御社殿の御屋根替へや内陣の改装、脇階段の増設などを完成し、去る平成二十四年十二月には本殿遷座祭も厳かに齎行いたしました。その後、付帯事業として、社殿内の狛犬の修理、境内林の保全作業、社殿の難燃化加工、境内車乗り入れ工事などを施工して参りました。今般、これらも完成いたしましたので、御修造事業記念碑を造立し、表面には奉賛者の御芳名を刻して長く保存するとともに、皆々様が一層の御神恩を頂戴できますことを祈念することといたしました。

三月二十日、恒例の祈年祭・合祀神例祭に併せまして除幕式を執行いたしました。ここに報告とともに感謝申し上げます次第です。

(関連記事四面)

平成二十八年度祭事曆

- ◎ 一月 一日 歳旦祭
鶏鳴神事
- ◎ 三月二〇日 春季大祭
祈年祭・合祀神例祭
- ◎ 五月一日 例大祭
神社本廳獻幣使参向
- ◎ 五月二九日 昭和祭
琵琶島弁天社へ神輿渡御
- ◎ 六月三〇日 大祓式
大祓人形納め・茅の輪神事
- ◎ 七月一〇日 天王祭出御祭
本社神輿御霊入・宮出渡御
- ◎ 七月二二日 三つ目神楽
無形文化財湯立て神楽
- ◎ 七月二七日 天王祭巡幸祭
天王神輿町内巡幸
- ◎ 七月二四日 手子神社例祭
- ◎ 九月 一日 浅間神社例祭
- ◎ 九月一七日 熊野神社例祭
無形文化財湯立て神楽
- ◎ 一〇月一六日 手子神社秋祭
無形文化財湯立て神楽
- ◎ 一二月三三日 秋季大祭
新嘗祭
- ◎ 二月 八日 歳の市
開運熊手授与
- ◎ 二月三三日 天長祭
- ◎ 二月三三日 大祓式
大祓人形納め・古札焼納式
- ◎ 毎月 一日 月次祭

瀬戸神社の境内神社とご祭神

木花咲耶比売命・高竈神ほか

各地の神社にお詣りされると、神社の境内には御本殿のほかにも、小さな御社殿がいくつもあり、様々なご祭神が祀られてゐることにお気づきでせう。

このやうな御本殿以外のお社を境内神社といひます。境内神社には「撰社」「末社」の格を区分して称することもあります。

瀬戸神社の場合は、国道を挟んで飛び地境内となつてをります。琵琶嶋鎮座の琵琶嶋神社を撰社とし、その他のお社を末社としてゐます。

琵琶嶋神社は御本社ご祭神が源頼朝により勧請せられたのに併せて、妻の政子が竹生島弁才天を勧請したとの伝承や、御例祭には必ず琵琶嶋神社前に御本社神輿の「おわたり」があることなどから、特に境内神社の中でも別格なものとして、これを「撰社」と称してゐます。

瀬戸神社の「末社」には、「左末社」「右末社」「青麻社」「祖霊

社」「稲荷社」があります。

今回はこのうち「左末社」と「右末社」について解説することとします。

○ 「左末社」は御本殿の向かつて右側、東側のお末社です。

向かつて右なのになぜ「左末社」といひますと、御本殿のご祭神の位置から見て右側だからです。京都の地図をご覧になると右(東)側に左京区、左(西)側に右京区があります。地図は北を上になりますからさうなりませんが、平安京当時の大極殿で陛下から見て東側が右となりま

す。お雛様の十五人飾りの左大臣・右大臣もこれと同様です。さて「左末社」のご祭神は、

木花咲耶比売命(このはなさくやひめのみこと)・石長比売命(いはながひめのみこと)です。

本社ご祭神の大山祇神の娘神で、姉が石長比売命、妹が木花咲耶

朝比奈町鎮座

熊野神社

社伝によれば、鎌倉に幕府を開いた源頼朝が、その東北の守りとして熊野三社をここに勧請したものとひます。仁治二年(一二四二)、鎌倉幕府は朝比奈切通しの開鑿に全力を挙げ、執権北條泰時は自ら現場に臨んで工事を指揮しました。社殿の建立もこの頃行はれたこととせう。

その後、元禄八年(一六九五)、地頭加藤太郎左衛門尉良勝が神殿を再建してから、里人の崇敬を集め、相模国鎌倉郡峠村の鎮守として崇敬されてきました。安永及び嘉永年間には再度の修築も行はれて、明治六年村社に列しました。

昭和五十三年、氏子一同の熱意を結集して、入母屋造、総檜、銅板葺きの本殿を完成し、さらに平成御大典記念事業として新たな拝殿を建築竣功して今日に至つてゐます。

御祭神は速玉男命、伊邪那岐命、伊邪那美命の三柱です。

例祭日は九月十七日で、昔ながらの古式にのつとつた湯立神楽が今も続けられてゐます。

谷津町鎮座

浅間神社

谷津の町の鎮守として古来崇敬されてきました。伝説では御堂関白太政大臣藤原道長が当地に來遊し、能見堂から金沢の景勝を鑑賞したときに、正面の目の下にあるこんもりとした山を塗桶山と名付け、そこに浅間大神を勧請したといはれます。道長の来訪は史実ではありませんので、創建の詳細な時期は不明ですが、富士山信仰が開東一円に広まった中で当地にも勧請されたものでせう。

ご祭神は富士山の浅間神社と同じ木花之佐久夜毘賣命です。特に安産の御利益があり婦人の崇敬が篤かつたと伝へます。御祭神が天孫瓊瓊杵尊の御后となり、御子神等を出産されたことによるものでせう。

祭礼は六月一日の開山祭と九月一日の例祭。例祭(近くの土日曜)には谷津・東谷津・泥亀の各町内で神輿の巡幸その他のにぎやかな行事が営まれます。寛正四年(一四六三)西山松眠といふ医師が神饌田を奉納、以来、例祭には赤飯をお供へし、お下がりには崇敬者婦人が分けあつたといふことです。

比売命です。

瓊瓊杵尊が天孫降臨されてこられた時に、大山祇神はこの姉妹を瓊瓊杵尊のお后にと申し出られました。瓊瓊杵尊は眉目秀麗な美しい木花咲耶比売お一人を后に召され、さうではない石長比売を親元へお返しになりました。大山祇神は「木花咲耶比売を遣はしたのは皇孫の御代が咲く花のやうに美しく栄えることのためであり、石長比売を遣はしたのは皇孫の命が岩のやうに永遠であることを保証するためであったのに、石長比売を娶られなかつたので、皇孫の寿命は限りがあることになる」と仰せられ、それ以来、限りある御寿命になったとの生命短縮の説話でもあります。

このやうに「左末社」のご祭神は御本社主祭神である大山祇神の娘神であります。木花咲耶比売命は浅間神社の御祭神であり、富士山の神でもあります。富士山と三嶋の神との関係からも深い由緒が推測されるところでもあります。

一方、「右末社」のご祭神は、

大雷神（おほいかづちのかみ）・高麗神（たかおかみのかみ）です。大雷神は文字通りのかみなりの神様としてご理解はしやすいでせう。一方、高麗神の「麗」といふ文字は普段は見ることのない複雑な文字ですね。これは天空の竜神であり、雨風を支配し水源を司る神でもあるとされます。京都の貴船神社の祭神でもあります。

日本書紀には、伊邪那岐神・伊邪那美神が国生みに続き、草木の神、風の神、水の神などを次々にお生みになり、最後に火の神をお生みになったとき、伊邪那美神が大やけどでお亡くなりになってしまわれました。この時に伊邪那岐神が怒つてこの火の神を三つに斬つたと、大雷神・大山祇神・高麗神の三柱になったとの神話が記されてをります。

この神話に基づけば、大雷神と高麗神は主祭神である大山祇神の兄弟神であるといふことができます。

このやうに、御本社本殿に最も近い左右のお末社のご祭神は、

主祭神の兄弟や娘の神々です。

これらお末社も御屋根等が大分古びて参りました。御本社の御修造が成りましたが、この境内神社の御修造も次の課題となります。

皆々様のご理解も戴きたく、よろしくお願ひ申し上げます。

釜利谷町鎮座

手子神社

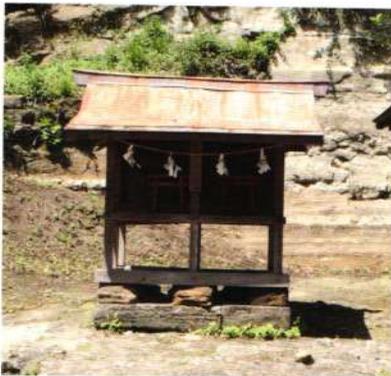
釜利谷町総鎮守の手子神社は、もとの地の領主伊丹左京亮が、文明五年（一四七三）瀬戸神社の御分霊を宮ヶ谷の地におまつりしたものです。

延宝七年（一六八〇）、伊丹氏の子孫、三河守昌家の子で、江戸浅草寺の智樂院忠蓮僧正が、現在地に遷祀して以来、釜利谷一郷の総鎮守として信仰をあつめて来ました。

明治六年村社に列格、大正十二年の大震災で倒壊しましたが、同十五年再建し、昭和四十五年には御屋根も総銅板葺きに改修し、一段と御神威を加えました。

御祭神は瀬戸神社と同じく大山祇命、例祭日は七月十七日（現在はその後の日曜日）ですが、十月十五日（前後の日曜日）の秋祭りには、古式豊かな湯立神楽が昔ながらの伝統を守つて行われます。

境内の洞窟にお祀する竹生島弁才天は、金沢八景のひとつ「小泉の夜雨」の中心地にあつたもので、厄除け、開運の福神として信仰されてあります。



瀬戸神社路縁起

大昔、今の泥亀町、大川町、釜利谷町小泉のあたりまで海が入りこみ、柳町や六浦町の塩場、南六浦、内川町内もすべて海でした。そして洲崎と瀬戸の間は、潮の干満時には急流が渦を巻き、容易に渡れぬ難所でした。古代人がここに海神を祀ったのが瀬戸神社の起原で、今から千五百年以上も前（古墳時代）のことです。

治承四年（一一八〇）鎌倉に入った源頼朝が、日頃崇敬する伊豆三島明神をこの霊域に遷祀してからは、六浦港の守り神「瀬戸三島大明神」として鎌倉幕府をはじめ上下の尊信をあつめ、その後、足利氏、小田原北条氏の崇敬も篤く、江戸時代には名勝金沢八景の中心にあつて、百石の社領を有する大社として、江戸の町民の間にも信仰者がひろがりました。

明治六年郷社に列格、戦後は宗教法人となり神奈川県神社廳監督使参向神社に指定。現在の社殿は寛政十二年の建造で、昭和四年の屋根を銅葺きに改め、平成二十四年には御屋根替へと修増築の御修営事業が行われました。

御祭神

大山祇（おほやまつみ）の命

伊豆国三島大社、伊予国大三島の大山祇神社の御祭神と同じ海上交通の神であると同時に、水源地を司る山の神であり、金属、岩石、木材などの建築資材や、森林、鳥獣に至るまで、一切の生活資源は、この大神の恩徳によるものです。

天孫瓊杵尊の御后となられた木花咲耶姫の御父神にあられます。
須佐之男（すさのを）の命

配祀の神の須佐之男命は、天照大神の御弟神で、八俣の大蛇を退治された神話は有名です。自然界、人間界の罪けがれや悪者を追ひ祓ひ、人々の苦しみを除いてお守りくださる神様で、別名を「天王さま」と仰がれてゐます。七月の天王祭りには大神輿で氏子町内をくまなく御巡りになります。

菅原朝臣道真公

天満大自在天神とも尊称し、一般には「天神さま」と親しまれて呼ばれます。書道、学問、詩文、和歌に秀でてをられただけでなく、至誠、尽忠、孝道、正義、国家鎮護の神さまでもいらつしやいます。

「修理固成」について

一面にも掲載しました通り、「平成御修造事業」の記念碑を造立し、除幕式も執行しましたが、この碑面に「修理固成」の四字を彫り込ませて戴きました。

これは「古事記」に記載される文字です。伊邪那岐神・伊邪那美神が天神から「このただよへるくにをつくりかためなせ」との仰せ言とともに天沼矛（あめのぬぼこ）を賜りますが、この「つくりかためなせ」の部分「つくりかためなせ」の部分が漢字で「修理固成」と表記されてゐるのです。



おろし、引き上げたときに先から落ちたしづくが固まつて「をのころじま」となり、国生みが始まります。

ところで、この天神の「このただよへるくにをつくりかためなせ」とのご命令は、いつ完遂されたのでせうか。古事記には国造りが完成したとの記載はありませんし、しかも、昨今の現実の世の中をみれば、まだまだこのくには「ただよへるくに」だと思はれます。

地震などの漂ひもありません、政治経済も絶えず漂つてゐます。「ただよへるくにをかためなす」といふ神々の御神意は、すなはち私たちの使命でもあるのではないでせうか。この使命は「まつり」を通して人々が心を併せて成し遂げてゆくべき道でもあります。御造営の意義が、この御神意の奉行につながることを思ひ、この四文字を記載させて戴きました。

瀬戸神社 〒三三三〇〇七

横浜市金沢区瀬戸十八ー十四

（電話）〇四五七〇 一九九九

（FAX）〇四五七〇 一九九九

<http://www.setojinja.or.jp>